

平成 27 年度

第 60 回 長野県中学校連合教科研究会

特別活動

I	研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	指導者・司会者・記録者・・・・・・・・・・・・・・・・	1
III	各校の研究の要旨・・・・・・・・・・・・・・・・	1
IV	研究問題と協議内容・・・・・・・・・・・・・・・・	1～3
V	本年度研究会の反省と来年度の方向・・・・・・・・	4～5
VI	あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・	5

I 研究テーマ

「生徒の自主的、実践的な態度の育成を図る特別活動の創造」
～かかわりを深め、豊かな人間関係をはぐくむ学級活動～

II 指導者・司会者・記録者

- ・指導者 北信教育事務所指導主事 村松 晋 先生
- ・司会者 長野市立犀陵中学校教諭 吉岡 典彦 先生
- ・記録者 飯田市立高陵中学校 滝澤麻以子 先生

III 各校の研究の要旨

① 篠ノ井東中学校 鷹野 巽 先生

自尊感情につながる「うれしい」と思える感情について考え、意識させ、行動に移させる活動を学級・学年で行うことを通して、お互いの良さに気づき、支え合い学び合う人間関係を築いていく単元構想。

② 筑北村立聖南中学校 峰田由紀子 先生

自分の健康について関心を持ち、健康課題を考えながら生活できる生徒を育成するための授業構想。

③ 小川村立小川中学校 吉澤 英樹 先生

「氷見体験学習」「一日小川（草刈り作業）」をキャリア教育の一環と位置づけ、Plan（準備・計画）Do（実行）Check（評価）Action（改善）のPDCAサイクルの中で、職業観・勤労観を形成していく単元構想。

④ 附属松本中学校 内田 昌宏 先生

友と思いを語り合いながら、その思いに共感したり、その思いから生まれた歌声が重なり合っていくことに心地よさを味わったりしていく姿を実現していく音楽集会の構想

⑤ 附属長野中学校 木下 耕一 先生

二つに絞った応援旗のデザインについて、それぞれのよさをキーワードに沿って分類・整理しながら班で話し合う活動を位置づけたことにより、友の考えを尊重し、よさを認め合いながら自発的・自治的に諸問題を解決していく力を高めていく単元構想。

IV 研究問題と協議内容

研究テーマに沿って、各校より提出されたレポートを各討議題に分けて協議しご指導頂きました。

討議題1「お互いに認め合える人間関係づくりのための活動」について（篠ノ井東中、附属長野中） 「全校集会や行事に向けて学級活動や学校の意識を高める活動」について（附属松本中）

（1）討議された内容

- ①お互いを高め合い、自尊感情を高め合える授業内容や実践、必要感を感じる単元展開について
- ・学年職員が同じ目的を持って、同じ方向を向いて活動している姿が良い。
 - ・子どもの意識と必要感において、必要感を耕すための展開。個の喜びが学級の喜びになる。その喜びを学年に広げてもっと良い学年にしたいというような願いを持たせていけると良い。
 - ・学年で行うことに大きな意味がある。学級や学校の生活づくりにおいて異なる集団がある。学年も同じ年齢だが、異なる学級集団で特別活動においてとても魅力的である。学級や学校に適応する課題を1年生のうちに学年で取り組めることが特別活動に合致している。
 - ・話し合いを行うにあたり、柱をもって話し合いを膨らめたい。学習を貫く“軸”を明確に。

- ・自己肯定感や相手意識に目を向けさせるために具体的な意見を言う。行為の裏にあるお互いの気持ちを聞き、自分の気持ちを確かめることで、話し合いの良さを感じることにつながる。
- ②友の考えを尊重し、良さを認め合う話し合いのあり方について（集団としての形）
- ・最終的に残った2つの作品に対し、それぞれの良さを考えて分類していることにより、落ちた方が否定されていない。選ばれなかったものの良さが選ばれたものに活かされている。
 - ・全体→グループ→個の流れの中で、お互いの意見を聞き合うことを通して考えの変容が起こる。（アクティブラーニング）十分な話し合いにより個々に納得できる。
 - ・この話し合いの中で、キーワードの中で優先順位をつけた方がよいのか。すべてをまとめて折り合いをつけていけたらよいのではないか。両方を盛り込むという考え方。
 - ・話し合いを通してどちらかを選んでいるように見えるが、どちらの良さも取り入れている活動になっているのではないか。
 - ・「決定すること」は難しいが、「数で決めてはいけない」と言ってあいまいにすることも子どもたちはすっきりしない。それまでの過程を大事にできれば納得のいく“多数決”になる。

- ③全校合唱から生徒の関わり合いを深めていくための教師の支援、学級での支援のあり方について
- ・生徒が作り上げ、達成感や充実感を感じるという願う姿のために、研究としてどう位置づけるか。この“手立て”があったから生徒の変容が見られた、というのがあると良い。“手立て”はつきたい力を明確なものにしないと出てこない。今回は一人の生徒を追ったことが手立てではないか。
 - ・望ましい人間関係と考えた時、望ましいとは何か、とても難しい観点である。いろいろな人間関係がある中で振り返る場が設定されることが必要。
 - ・自分達の歌を可視化する。次に必要なことを子ども達が自分で考えられる。（スケーリングクエッション…目指す歌を10点満点として今何点なのか。10点にするには？という必要感）

(2) ご指導いただいた内容

- ・学年全体で取り組んでいるところに大きな意味がある。学力調査からも言えることであるが自校の結果を分析して学校として取り組みを持っているか。教師一人ひとりの力も大切であるが、「学校で」「学年で」という教員も集団としての力を大切にしたい。
- ・特別活動においても、“ねらい”と“評価”を一对として考えたい。ねらいを持っていると活動の中でその姿が目に見えてくる。評価につながる見とどけがしっかりできるようになる。
- ・生徒が折り合いのつけ方を知っている。3つの中から1つを選んで考える活動により折り合いをつけている。選択という活動の中でそれぞれのメリット、デメリットを比較できている。
- ・話し合いの中で折り合いをつけるに、「AとBを合せる」、「AとB両方」、「AとBの優先順位」、「AとBのいいとこ取り」などの折り合いのつけ方を教師も生徒も理解していることが大切。
- ・仲間の発表から自分自身の考えを深める姿が見られた。各ターニングポイントにおける歌うことの必要感をもってできるように教師側が支援している。それが子ども姿につながっている。

討議題2「キャリア教育の実践事例」について（小川中学校）

「健康教育の実践事例」について（聖南中学校）

(1) 討議された内容

①小グループでの話し合い、活発な話し合い活動場面の設定方法について

- ・固定された人間関係の中での話し合いや活動では、一人二役三役といった活動の場が必要。そのために地域に出したり、地域の行事に参加したりすることが手立てになるのではないか。
- ・目的があって活動が生まれるが、目的と活動が一緒になってしまう。活動に問いを持たせてあげる教師の見通しが重要。生徒自身が問いを明らかにするために活動がある。

- ・P D C Aサイクルの中で何をチェックするのか。学級として、個人として明らかにしていく。
- ②健康教育をどのように特別活動に取り入れるか、養護教諭との関わり方について
 - ・健康教育は学級全体の問題ではないため、個人でとどまりやすい。教師が何をねらっているか。
 - ・養護教諭の先生との関わりでは性教育が主になるが、他の実践では例がないので参考にしたい。
 - ・歯磨きをゴールにしないことが大切。「歯磨き」という一つの活動が「健康」につながる。この活動で得た考え方を通して他の観点で考えることができる。
 - ・個→集団→個の流れ。集団を形成する個を大切にすものとして扱う。個で考えたことを全体で共有し、最後に個に返すことでそれぞれにその重要性を実感させる。

(2) ご指導いただいた内容

- ・自己決定した子どもは、“自分の言葉”で語ることができる。その姿が見られたことから、自分達に対する地域の方の期待をちゃんと理解していることがうかがえる。
- ・健康活動を学習として扱っているところを大切にしてもらいたい。
- ・特別活動35時間の中で17項目の活動を行うので、項目2時間程度となる。

討議題3 「人間関係構築術としてのグループワークの可能性」について

(1) 討議された内容

- ・“「協力する」という目的”と“話し合いのスキルを高める”という目的”など、教師が何をねらうかにより活動の中身が変わってくる。それにより最後のまとめ方も変わってくるので、教師側の過程やまとめに向けての見通しが重要である。
- ・集団に属するものとして、「望ましい姿」を考える。その自分が望ましいと思う集団になるために何をするか。長期にわたり習慣化させる。投げかけることで子ども達は応えてくれる。

(2) ご指導いただいた内容

- ・特別活動は「決定と実践」が対になっていることが必要である。決定には“集団決定”と“自己決定”がある。そこからやってみようという「実践」があることが道徳教育との大きな違いである。やってみたら振り返りを行う。決定の過程を大切にするからこそ実践に意味づけが生まれる。キャリア教育や人権教育など今日的な教育課題と呼ばれるものが特別活動に入ってくる中でそれぞれの学校での取り組みを知り合うのはとても重要なことである。

(文責者 飯田市立高陵中学校 滝澤麻以子)

V 本年度研究会の反省と来年度の方向

平成27年度テーマ 「生徒の自主的、実践的な態度の育成を図る特別活動の創造」
～かかわりを深め、豊かな人間関係をはぐくむ学級活動～

◎本年度の反省

項 目	内 容
○本年度の研究テーマについて	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動で大切にしたい部分についてのテーマなのでこのままでよい。 ・現状のように、テーマが大きくなほうが各校の研究テーマにつながりやすくよいと思う。 ・内容については問題ないが、この全県テーマを知るタイミングや場所がはっきりしない。 ・連合教科研究会に参加するときを知る人が多い。ただ、事前に知らされていたとしても、学校の研究テーマと方向性が合わない困る。だからこそ、幅広いテーマがよい。

○研究の主な内容と研究の成果について	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマにつながる各学校の実践が行われているので、内容・成果もこの方向でよい。 ・学級活動の（１）だけに偏らず、様々な分野についてのレポートがあり、よかった。 ・生徒の学びの深まりが分かった。その深まりこそが研究の成果だと思う。 ・学級経営に取り入れられそうな実践があり、ためになった。
○研究の方法や経過について	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の独自性を大切にされた題材や展開があつてよい。それを発表してもらおうと勉強になる。
○研究会当日の運営について	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数だったため、一つ一つのレポートを発表者が丁寧に発表する時間があつてよかった。また、その後の討議も盛り上がった。発表者の説明をしっかりと聞き、読み込んだ上での討議であるべきだし、そういう時間が確保されるべきだとも思う。
○研究集録等のWebページ掲載について	<ul style="list-style-type: none"> ・メール、ホームページでの案内が詳しく、ありがたかった。 ・丁寧に連絡してもらつて、ありがたかった。
○本年度運営全般について	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの形式がある程度決まっていた方が書きやすいので、本年度のような方法でよい。 ・初めてだったので、どのような内容でまとめたらよいのか分からなかった。前年度のレポートの一部が載っていると分かりやすいと思う。 ・レポートが当日配付でもよいというのは書く方としてはありがたい。しかし、期日までに出して事前に読み込んでおいた方が討議が深まるという面もある。

◎来年度の方向

○来年度の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・継続でよい。
○来年度の研究の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・継続でよい。
○来年度の研究の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動では、教育課程などの機会がないと、なかなか研究授業をしない。ぜひ、教科だけでなく、領域でも積極的に研究授業にチャレンジしてもらえようと呼びかけていきたい。
○その他、改善したい点	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の時間、レポートを読む時間も含めると、少人数のグループがよい。 ・討議が深まり、とても勉強になった。大変よい研修の場なので、参加者を増やしたい。 ・今年度は司会の先生に講師をお願いして、午後にワークショップ（人間関係作りにかかわる活動）を取り入れることを計画していたが、レポート討議が充実していたため実施はしなかった。午後の時間の扱いについては、参加者のニーズに合わせ、弾力的に運営していきたい。 ・開会式の雰囲気が高く、話しづらい。もっと和やかな雰囲気で討議を始められるようにしてほしい。 ・もう少し開催時期が早まると参加しやすい。ちょうど三年生のテストの時期と重なり、学校を抜けづらいタイミングだった。

平成 28 年度テーマ（案）（継続）

「生徒の自主的、実践的な態度の育成を図る特別活動の創造」

～かかわりを深め、豊かな人間関係をはぐくむ学級活動～

VI あとがき

県下各地からお集まりいただいた先生方のレポートでは、学級活動・生徒会活動・学校行事等を通して、生徒の自主的、実践的な態度の育成を図る特別活動の実践が多く紹介されていました。協議の場面では、発表者の取り組みに基づいて生徒の具体の姿を基に熱心に協議を深めていただき、明日からの実践に役立つ大きな成果をあげて、研究会を閉じることができました。

本年度も 1 分科会での開催となりましたが、先生方の積極的なご発言等により、活発な討議となりました。ご参会の先生から、「初めて特別活動の分科会に参会したのですが、大変勉強になり楽しかったです。よい会なのでもっと多くの先生がこの会のことを知り、参会していただけるとよい」という感想をいただきました。

終日にわたって全参加校の研究内容と今後の方向についての的確なご指導、ご助言をしてくださいました指導者の村松晋先生、レポートをくまなくお読みいただき、綿密な司会計画により協議を深めていただきました司会の吉岡典彦先生、当日の記録及び研究集録のまとめに多くの時間を割いてご尽力いただきました記録の滝澤麻以子先生に、心より感謝申し上げます。そして、お忙しい中、日々の実践をレポートにまとめ、熱心に協議に参加され、研究会を実りあるものにしてくださった参会の先生方に心から感謝申し上げます。

来年度も多くの先生方が参加され、よりよい特別活動のあるべき方向を求めて、より有意義な研究会にさせていただくことを願い、また、先生方の今後の一層のご活躍を祈念申し上げ、御礼とさせていただきます。ありがとうございました。

委員長 木下 耕一

副委員長 内田 昌宏